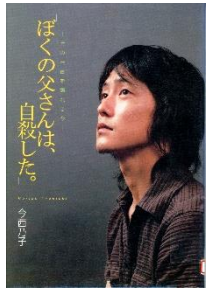


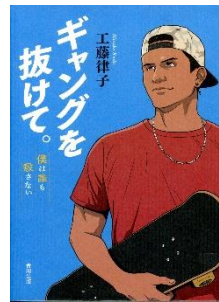
社会



中学二年生のときに僕は父を失った
『ぼくの父さんは、自殺した。』

父親が自殺した。周囲の目と自責の念。自殺したなんて言えなかった。そこへ痛みを共有できる仲間が現れた。年間自殺者3万人の現代。自殺をなくすため、自殺について語れる社会へ向けて、彼は動き出す。

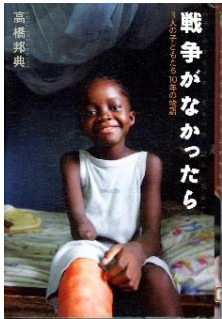
今西乃子
そうえん社
Y368 イ



生き延びるために、危険に身を投じる
『ギャングを抜けて。』

凶悪なギャング団が支配する街で生まれ育ち、ギャングの世界に片足を突っ込んだアンドレス。組織から、人を殺せと告げられた彼は、人殺しにならないため、ギャング団から着の身着のまま逃げ出すが…。

工藤律子
合同出版
Y367 ク



フォトジャーナリストから君たちへ
『戦争がなかったら』

戦争というものは、子どもたちの人生から何を奪い、何を残したのだろうか。リベリア共和国での内戦を取材中に会った右手を失った少女や少年兵たちの10年間の記録。

高橋邦典
ポプラ社
Y367 タ



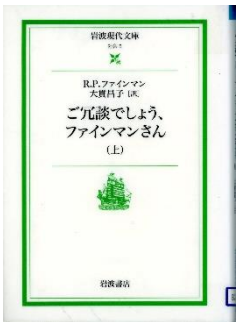
扇動されるな!自分で見極めろ
『たったひとつの「真実」なんてない』

ニュースや新聞は間違えないという思い込みは捨てよう。でも、嘘ばかりというのも間違い。メディアはすべて、事実と嘘の境界線上にある。私たちに不可欠となっているメディアを正しく使う方法を考える。

森達也
筑摩書房
Y361 モ



理系



人生を楽しむ術を天才から学べ
『ご冗談でしょう、ファインマンさん (上)』

本書は20世紀を代表する天才物理学者の自伝ではない。終戦を迎えるまで、どの時代においても彼はその状況を最大限楽しみ、そして、決して流儀を変えなかった。下巻もどうぞ。

R. P. ファインマン
大貫昌子 訳
岩波書店
B289 フ



監察医って職業を知っている?
『死体が教えてくれたこと』

なぜ監察医になったのか、人が死ぬとはどういうことか、自分とは何なのか…。2万体の検死解剖を行った法医学の第一人者が若者に向けた一冊。命の大切さを自身の生涯を振り返りながら説く。

上野正彦
河出書房新社
Y498 ウ



生物オタクアナの「ムシ熱い」青春記
『理系アナ樹太一の生物部な毎日』

筋トレと登山合宿が必須の「体育会系」生物部の過酷な日々、デートとムシ取りの究極の選択、アサリ掘りで砂にまみれた大学での研究生活、そして、未知のテレビ業界へ。

樹太一
岩波書店
Y289 マ



みんなの知りたいに答えます!
『宇宙飛行士に聞いてみた!』

どこで空が終わって宇宙になるの? 訓練の間、何を勉強するの? 国際宇宙ステーションに186日滞在した宇宙飛行士が、打ち上げ、訓練、国際宇宙ステーションの暮らし、船外活動などに関する多くの質問に答えます。

ティム・ピーク
日本文芸社
Y538 ビ